

明神小だより

銚子市立明神小学校学校便り
VOL.5 令和7年6月13日

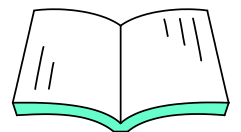
令和7年度 学校教育目標 「心豊かに自律できる子供の育成」
『楽しく、面白く、やってみたいをやってみよう!』

「暗唱チャレンジ」に取り組んでいます

～学びの楽しさ、深さを育てるために～

本校では、今年度も「暗唱チャレンジ」を年2回（6月・10月）実施する予定です。現在、6月2日（月）から30日（月）までの1か月間で、第1回のチャレンジに取り組んでいます。暗唱は、ただ言葉を覚える活動ではありません。繰り返し読んだり聞いたり、声に出して唱えたりすることで、子供たちの記憶力だけでなく、集中力、言葉の感覚、イメージする力、語彙力など、さまざまな力が育まれていきます。

現在、担任の先生から合格をもらった子供たちは、休み時間に校長室へ足を運び、「暗唱名人」を目指して挑戦を続けています。いつもと違う、少し緊張感のある校長室という場所で、一人ひとりが真剣な表情で暗唱に取り組む姿はとても頼もしく、心を打たれます。



自分の学年の課題を終えて、さらに上級の課題に挑戦する子、大きな声で心を込めて詩を発表する子、それぞれが達成感に満ちた表情を見せてくれます。

さて、ここで少し立ち止まって考えてみたいことがあります。

「学校は、何をするとところでしょうか?」「勉強をするところ」と答える方も多いと思います。実際、私自身も小学生のころはそう思っていました。でも大人になってみると、学校は「勉強のしかた・やり方を学ぶところ」なのだと考えるようになりました。

例えば、漢字を覚えるときに「この漢字を使って文章を作ってみよう」と工夫してみたり、九九の学習のときに「この九九を使ってどんな計算ができるかな」と試してみたり、こうした“学びの方法”を身に付けていくことが大切です。

「暗唱チャレンジ」も単に暗唱の正確さだけを見るのではなく、その詩の作者がどのような思いで詩をつくったのか、どんなことを伝えたかったのかを考える力も育てることを目的としています。そうした深い学びは、小学生のうちだけでなく、中学、高校、そしてその先の人生においても大いに役立つ力となります。つまり、学校とは「知識を詰め込む場所」ではなく、「学び方を学ぶ場所」になります。そして最も大切なのは、「自分で学び方を身に付けようとする姿勢」を育てることです。

ご家庭でも、ぜひお子さんとの会話の中で「暗唱チャレンジ」や「学びの工夫」について話題にさせていただき、励ましの声をかけていただければ幸いです。子供たちが主体的に学び、成長していく大きな支えとなります。